



人が踊る。しぶきが踊る。
港に祭りがやってくる。

牛深の大漁船

牛深ハイヤ祭り

ハイヤエー ハイヤハイヤで
今朝出した船はエー
どこの港にサーマ
入れたやらエー

街にビートのきいた激しいリズムが響きわたる。

四月の第一土、日曜日の両日、牛深市は三千人の市民が街中を踊り歩き、「牛深ハイヤ祭り」で賑わう。そもそも、ハイヤ節とは、江戸時代から漁師の酒盛り唄として唄われてきた。それが、船乗りたちによって全国に広められていったという。

牛深は県下最大の漁港。東シナ海の遠洋物に加え、近海で獲れる新鮮なイワシ、キビナゴなどが、毎日、水揚げされている。

総踊りが始まる頃、景気付けの意味もあるのだろう、地元の漁船団が大漁旗をたなびかせながら港に入ってくる。『藍より青い』美しい海を白い波しぶきをあげながら進む漁船団。まさに勇壮なセレモニーである。



撮影 池田輝明さん